

【83】グリーン車

今年の4月から、東京の重要な通勤電車のJR中央線に歴史上初めて2階建てのグリーン車が2両連結されることになり、ちょっとしたニュースになりました。

よく考えるとグリーン車って不思議な言い方ですが、昔流に言えば「一等車」又は「二等車」のことです。

戦前から戦後の一時期まで、客車の等級は一等車、二等車、三等車とあり、一等車は東海道、山陽の超重要幹線のみですが、二等車は幹線の普通列車にも連結されていたことがありました。

学生時代の貧乏旅行で羽越本線の普通列車に乗っていたとき、無名の小さな駅で大勢の見送り人がホームに集まっていました。

旅人は新婚旅行の若夫婦で、他に相客がないガラガラの二等車にバツの悪そうな感じで座り、開けた窓越しに皆の祝福を受けていました。

普通列車の二等車の効用はこんな処にもあるものかと妙に感心しました。

国鉄の経営が苦しくなった昭和30年代には、急行や特急が乱発され、二等車はもちろんの事、一等車までもが北海道や四国等各地一部の準急にまで設けられるという混乱の時代がありましたが、昭和40年代のダイヤ改正で車輛の等級は「普通車」と「グリーン車」の2種に整理され、優等列車は「特急」にほぼ一本化されました。

通勤地獄と云われた時代ですので、通勤電車には横須賀線などの例外は別にして、グリーン車はありませんでした。

その後、運転距離の長い中距離電車にはグリーン車が付けられるようになりましたが、中央線は混雑がひどいので、運転距離はわりに長いのですが（東京→高尾53km）、混雑解消が優先でホームの延長工事を要するグリーン車にまで手がまわらなかったのでしょう。